



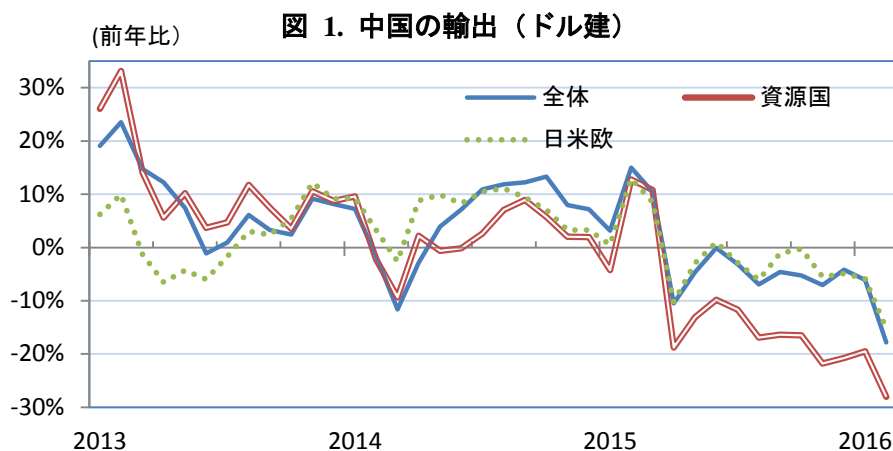
2016年3月10日

二巡目に向かう途上国の景気悪化 ～中国の貿易統計を読みとく～

公益財団法人 国際通貨研究所
経済調査部 上席研究員 森川 央

2月の中国の輸出は前年比25.4%減と、6年9カ月ぶりの大きなマイナスとなった。もちろん例年この時期は春節（旧正月）の大型連休のため、単月の数字は乱高下することを割り引く必要がある。しかし、1月も同11.4%減と二桁のマイナスで、1-2月累計でも前年比17.8%と不振だった。主要メディアでは、米国向けが15.9%減、欧州連合（EU）向けが15.5%減、日本向けが12.7%減（いずれも1-2月）と、主要市場向けの不振（15%前後の低下）が報じられていたが、もう一つ注目すべき点がある。資源国向け輸出の大幅な悪化である。

図1は中国の輸出全体と日米欧向け、資源国向けの伸び率を示している。資源国は2月までのデータが利用できるインドネシア、マレーシア、ロシア、オーストラリア、カナダ、ブラジル、南アフリカで代表した。資源国向け輸出は前年比28.0%減（1-2月）と、日米欧向けを大きく下回っている。このことは、中国の減速により資源国の景気が悪化し、そのため中国から資源国に向かう輸出（主に製品）が大幅に鈍化していること、つまり不況が一巡したことを示している。



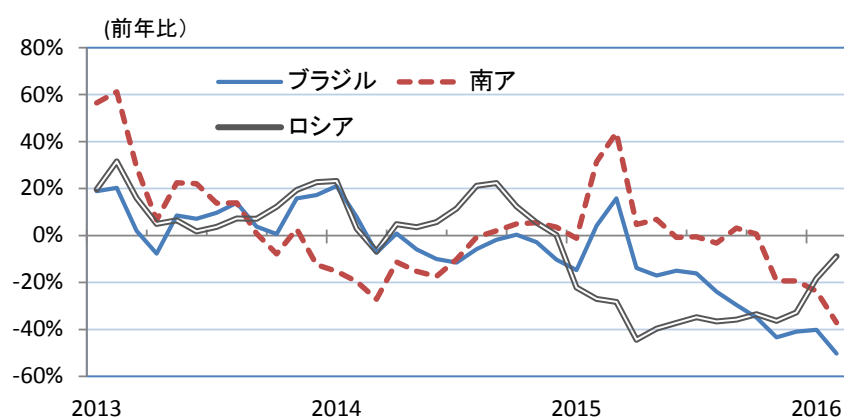
(注) 資源国は、インドネシア、マレーシア、ロシア、オーストラリア、カナダ、ブラジル、南アの合計。伸び率は全て2カ月の移動平均。
(資料) トムソン・ロイター

2015年のデータによると、資源国向け輸出は全体の9.9%を占める。米国の18%、EUの15.6%には劣るが、日本の6.0%を上回る。決して小さな市場ではない。

そして、不況のスパイラルは二巡目に入ろうとしている。個別にみると昨年減少が激しかったロシア(35.2%減)に代わり、足元ではブラジルの悪化が著しい(2014年21.5%減、16年1-2月50.3%減)。南ア、マレーシア、インドネシアも3割減である(1-2月)。

その結果、中国国内でも輸出不振→生産減→輸入減というサイクルが切れない。輸入は1-2月累計の前年比16.5%減、資源価格は年明け以降反発も見られるが、資源国からの輸入(上記7カ国ベース)も同15.6%減と、2桁の減少が続いている。これが更に資源国の景気を冷やすことになるだろう。

図 2. 中国からの主な資源国向け輸出



(注)伸び率は全て2カ月の移動平均。
(資料)トムソン・ロイター

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。